



NICHIBAN

シールテープ

せこたん™

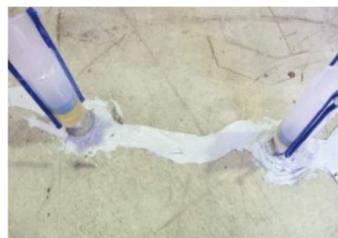
取扱説明書

手動式低圧注入工法

低圧注入工法用「シール材」

シールテープ
CS-5010W専用プライマー
CSP-5000

ニチバン株式会社

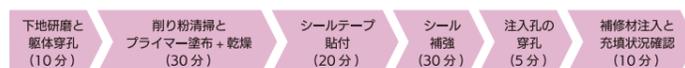
シールテープ
せこたん™ CS-5010W とはシールテープせこたん™ CS-5010W(以下シールテープ)とは
コンクリートひび割れ補修工法の一つである、
低圧注入工法に使用するシール材(目止め材)です。従前工法
シール材目止め+自動式低圧注入本工法
シールテープ目止め+手動式低圧注入

特長

- シールテープは硬く、躯体への接着力が高い。
- 透明なテープ背面から補修材の注入状況を確認できる。
- 目止めの養生時間が短く、工期を短縮できる。
- 容易にはく離・撤去でき、仕上がり面がきれい。

施工時間の目安

■ 施工1日目



■ 施工2日目



【条件】直線ひび割れ3mの施工(施工時期:春-秋)の場合
 ※施工場所、気温による養生時間の変化等により、施工時間は変動します。
 ※躯体の状態により、専用プライマーを使わない場合は、施工時間は短くなります。

ご使用いただく前に

保管上の注意

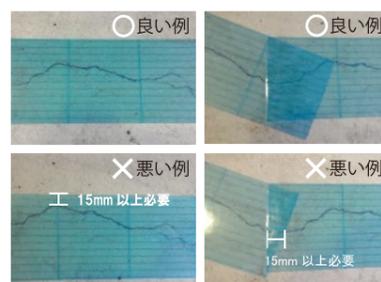
- 子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 高温多湿を避け、直接日光の当たらない場所に保管してください。

使用上の注意

- 本来の用途以外には使用しないでください。
- エポキシ樹脂系補修材を注入してください。
- 5℃以下の低温条件や 40℃以上の高温条件でのご使用はお控えください。
- 下地が濡れている場合はよく乾燥させてください。
- 下地処理を実施してください。
- **スクレーパーで突起、汚れ等を削ぎ取ってください。**
 ※経年コンクリート、新設コンクリートにかかわらず、汚れや白華等の粉体が付着している面にシールテープを貼付しても十分な粘着力は発現されませんので、清掃してから貼付してください。
- **必要に応じて専用プライマー塗布を実施してください。**
 ※せこたん™ 専用プライマーCSP-5000は、水系非硬化型のプライマーで、コンクリート素地専用です。躯体表面が塗装、撥水処理等されている場合は使用できません。
 ※また、コンクリート素地であっても、微細な隙間の多い表面では、塗布しても吸い込まれて表面に留まらず、改善効果が出ない場合があります。事前に目立たない箇所でも効果を確認の上、使用してください。
 ※躯体についた塗り跡は、シールテープをはく離した後に水拭きすれば、基本的に除去可能ですが、事前に目立たない箇所でも確認の上、使用してください。

■ テープを貼付する際は、以下の点にご注意ください。

シールテープは、ひびがテープ端から15mm以上内側に収まるよう貼付、シールテープ上にシールテープを重ね貼りする際も下貼りテープの端が、上貼りシールテープ端部から15mm以上内側に収まるよう貼付してください。



- ひび周辺や粗い部分、下貼りテープの境界で段差のある重ね貼り部分は、隙間が残らないようシールテープの上から硬質ヘラ等でしごくように強く圧着して下さい。



■ はく離後は必要に応じて後処理を行なってください。

※粘着剤、「ボンドスプレーのりZ-3」の残留は、ニチバンテープはがし強カタイプ TH-K220を噴き付け、2~3分馴染ませ、スクレーパーで削ぎ取ってください。

コニシ
ボンドスプレーのり
Z-3ニチバン
テープはがし強カタイプ
TH-K220

- 注入器具及びエポキシ樹脂系補修材は、市販品をご使用ください。入手先が不明な場合は、裏面記載の弊社連絡先までお問合せください。

本品は使用方法・使用条件(表面状態や段差等)によって本来の性能を発揮できない可能性があります。事前に目的の用途に適合するか必ず確認の上、ご使用ください。

1



下地研磨と躯体穿孔

- ・スクレーパーで突起、汚れ等削ぎ取り。
- ・過度に粗い面はディスクサンダーで下地研磨。
- ・コンクリートドリルで注入孔を穿孔。

注) 表面粗さRa=6 μm以下はシールテープのみ、Ra=7 μm以上は市販の「ボンドスプレーのりZ-3」とシールテープの併用を推奨しております。
 注) 市販の「ボンドスプレーのりZ-3」を対象躯体にスプレー塗布し、30分程度養生させることで、耐圧性向上、不陸調整となり、手順1~2を省略できる場合があります。事前に目立たない場所で効果を確認の上、ご使用ください。
 ※表面粗さRaの目安：サンドペーパー#1000は6 μm、#360は11 μm程度。塗装型枠で打設した躯体は2~3 μm。
 注) 注入孔は、穿孔径5mm×深さ5mm程度、穿孔ピッチ100~200mm程度。



2



削り粉清掃

注) ウエスやエアブラシで削り粉を除去



プライマー塗布

- ・刷毛で原液をそのまま、塗れ色がつく程度に塗布。
- ・乾燥時間は、春~秋15分、冬30分程度確保。

注) 専用プライマーはコンクリート素地専用、事前に少量塗布し、不具合ないことを確認。
 ※ 塗装面や撥水処理面では、弾いてプライマー効果が出ない、水拭きで塗り跡が除去できない可能性があります。
 ※ 塗布液が奥に吸収されて表面に留まらない多孔状態の面では、プライマー効果が出ない可能性があります。
注) 上記に該当する場合は、プライマー塗布なしでシールテープ貼付。

3



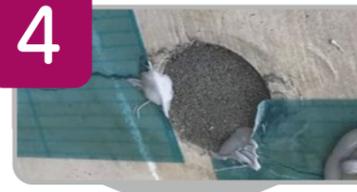
シールテープ貼付

- ・布切れや軍手を丸めたもの等、滑り易いもので背面を押さえながら滑らせ、仮貼付。
- ・硬質ヘラ等を使い強く圧着。
- ・注入孔位置に油性ペンで印付け。

注) 一方から背面を押さえながら滑らし、空気を抜きながらシワが入らないように仮貼付。
 注) ひび周辺や粗い部分、重ね貼り段差、補強テープ下貼り境界部分等は、硬質ヘラを立てた状態でしごくように強く圧着。
 注) さらにゴムローラーで強く圧着するとしっかり密着。



4



シール補強

- ・型枠継ぎ目段差、テープ重ね貼り段差、粗い面等のせこたんTMが追従しにくい部分は、市販のエポキシ系速硬化型接着剤等で補強。

注) 速硬化型接着剤の注意事項、使用方法、養生時間は、各取扱説明書の記載内容参照。



5



注入孔の穿孔

- ・注入孔位置(印をつけた穿孔箇所)で、カッターナイフ、ポンチ等を用い、シールテープを穿孔。

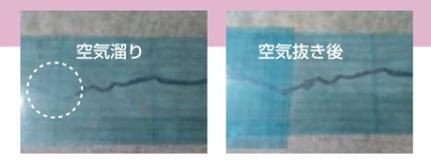
6



補修材注入と充填状況確認

- ・テープ背面から充填状況視認しつつ、手動ガンで注入孔からエポキシ樹脂を注入。
- ・注入孔周辺に付着の補修材を拭き取り、更に予めカットしておいたシールテープを上から重ね貼りし、封止。
- ・同作業を繰り返す。

注) 空気溜りがあれば、空気溜り上のシールテープを穿孔、空気抜き後、予めカットしておいたシールテープを重ね貼りして封止。
 注) シールテープが膨らんだ場合、注入圧を下げる。



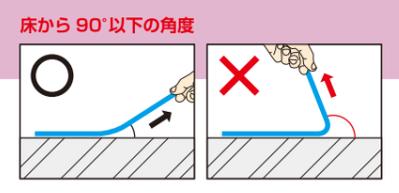
7



シールテープ除去

- ・スクレーパーで削ぎ取りも可能。

注) 90°以下の浅い角度でゆっくり剥がす。
 注) シールテープは、貼付から4日以内にはく離・撤去。
 ※高速で剥がしたり、4日を超えて貼付すると糊残りの可能性、深い角度で剥がすと基材切れの可能性あります。



8



後処理

- ・粘着剤の残留は、ニチバンテープはがし強カタイプTH-K220を噴き付け、2~3分馴染ませて、スクレーパーで削ぎ取り。
- ・貼り跡は、金属ブラシ、スクレーパーで削ぎ取り。

